

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	呼吸器内科学 Respiratory medicine	DM_1414	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
-					
-					
溝口	◎幸山 正				藤岡ひかり (助手)

	呼吸器内科学Ⅰ (1年次)				呼吸器内科学Ⅱ (2年次)				呼吸器内科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	(呼吸生理学)肺の機能は肺を循環する血液のガス交換の場である。エネルギー産生に必要な酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する機能であるが、この機能が損なわれると呼吸不全となる。呼吸器疾患を学ぶためにはまず、この基本的な肺の機能を理解していく必要がある。肺の構造、呼吸生理学に必要な化学の知識を理解していく。				(呼吸機能検査学)肺の病態を評価していくためには、患者さんの呼吸の状態を理解していく必要がある。呼吸の機能を計測する方法として、古くから呼吸機能検査が行われている。近年呼気NOの計測法とその意義についても研究が進んできており、臨床に取り入れられている。これら、呼吸機能について詳しく学んでいく。				(呼吸器疾患)呼吸器科で接する主な疾患を詳しく理解していく。各種疾患の特徴を詳しく学び、理解していく。COPD、間質性肺炎、気管支喘息、肺炎、肺癌については、その定義、診断、治療法にいたるまで理解していく。			
到達目標	呼吸器疾患の病態を生理学的に説明できるようになる。				呼吸機能検査から患者の状態を把握できるようになる。検査には多くの項目があるが、臨床的に必要とする検査を組めるようになる。治療効果の判定にも使用できるようになる。				専門医として患者さんの病態を評価できる。これまで学んだ、生理学、呼吸機能学を利用して、専門医や専門以外の医療関係者に病態を詳しく伝えることができる。			
事前事後学修	「病気がみえる vol4呼吸器」を事前に読んでおく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				「病気がみえる vol4呼吸器」を事前に読んでおく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				「病気がみえる vol4呼吸器」を事前に読んでおく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 50% レポート 50%				受講態度 50% レポート 50%				受講態度 50% レポート 50%			

■主な演習(講義・実習含む)

	呼吸器内科学Ⅰ (1年次)	呼吸器内科学Ⅱ (2年次)	呼吸器内科学Ⅲ (3年次)
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	木 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 呼吸生理学	月 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 呼吸機能検査について	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00 呼吸器の臨床
	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00 臨床患者の呼吸生理学の実際	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 呼吸機能検査	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 30 呼吸器外来
	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00 呼吸生理学試験	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00 呼吸機能検査学試験	金 曜日 : ~ : 呼吸器疾患試験

教科書・参考書

講義内で紹介

その他履修上の注意事項

試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	呼吸器外科学、放射線診断学、放射線腫瘍学、内科学系から副科目1科目を選択。
	共通科目	呼吸器病学特論

関連する専門医資格

認定内科医(日本内科学会)臨床研修2年 教育病院1年以上、呼吸器専門医(日本呼吸器学会)会員歴3年 経験5年、アレルギー専門医(日本アレルギー学会)会員歴5年 経験6年

キャリアパス(モデルコース)

